

得票率と議席率との関係性における 媒介変数としての選挙制度による インパクト

—1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプション—

手嶋政洋

はじめに

選挙制度が有するインパクトには、多様なものが考えられるが、とりわけ、有効政党数の削減に関するインパクト及び選挙ヴォラティリティ (electoral volatility)¹に関するインパクトは、より大きなものであると想定される。

選挙時 (t) から議会時 (t+1) へとシフトした際の有効政党数の削減率及び不均衡指数については、例えば、レイプハルト (Arent Lijphart) は、以下のような実証分析を行っている²。

レイプハルトは主として欧米諸国の22ヶ国 (フランス第4共和制と第5共和制をそれぞれ1ヶ国としてカウント) を調査対象とし、それらを①多数代表 (Plurality and majority)、②単記非移譲投票 (Single nontransferable vote) 及び③比例代表 (Proportional representation) の3つの制度カテゴリーに分類した。①の多数代表としては、カナダ、ニュージーランド、イギリス、アメリカ、フランス第4共和制及びオーストラリアの6ヶ国を調査対象とし、②の単記非移譲投票としては、日本1ヶ国を調査対象とした。③の比例代表としては、オーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス第4共和制、ドイツ、アイスランド、イスラエル、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス及びアイルランドの15ヶ国を調査対象とした。そして、選挙レベルにおける政党の有効数と選挙を経たあとの議会レベルにおける政党の有効数から、政党数の削減率及び不均衡指数の算出を行い、各々の選挙制度が有するインパクトを測定した結果、政党数の削減率が大きく、

不均衡指数が高いのは概ね多数代表制度であり、削減率の平均値は16.5%、不均衡指数の平均値は7.4%という数値を導き出した³。一方、削減率が小さく、不均衡指数が低いのは概ね比例代表制度であり、削減率の平均値は7.6%、不均衡指数の平均値は2.0%という数値であった⁴。すなわち、両者間には大きな開きがあると言えるのであり、このことは、両極に位置する各選挙制度の下での生存可能な政党数には、大きな差異があることを意味する。

有効政党数の削減率が高く、したがって不均衡指数に関して高い数値を示す多数代表制度は、ヴォラティリティにも大きなインパクトを与え得るものと考えられる。これは、演繹的には以下のように考えられる。仮に、1選挙区における有権者総数は5人で、投票コストは0、若しくは義務投票制度であるため投票選択が求められ（すなわち、棄権という選択肢は存在しない）、有権者は競合する2つの政党（X党、Y党）に関して必ず選好順位を有しているという前提条件の下で選挙が行われるものとする。ある選挙区においては、X党を好む有権者が3名、Y党を好む有権者が2名存在している。このケースの場合、同選挙区における勝者（議席獲得に成功した政党）はX党となる。その他の選挙区においても同様の傾向があるならば、X党は第1党として政権運営を行うこととなる。

しかしながら、次回選挙において、同選挙区における任意のある1名がY党へと支持を変化させた場合、同選挙区における勝者（議席獲得に成功した政党）はY党となり、その他の選挙区においても同様の傾向があるならば、前回選挙とは異なり、Y党が第1党として政権運営を行うこととなる。すなわち、多数代表の特質を有する小選挙区制度においては、ヴォラティリティの幅は大きくなる蓋然性が高いと言えよう。

このように、有効政党数の削減率や不均衡指数が高く、ヴォラティリティの幅が大きくなる傾向が強い小選挙区制度では、大規模な政治変動が生じやすい。近代国家成立以降、先進民主主義諸国において、最も劇かつ大規模に生じた政治変動の経験を有する国家はカナダであろう。

小選挙区制度を採用するカナダでは、今からちょうど20年前に行われた1993年第35回総選挙において、党首であり首相のキャンベル（Kim Campbell）を擁する与党・進歩保守党（Progressive Conservative Party）が、政権担当政党から最小野党に転落し、獲得議席数は僅か2議席という惨敗に終わった。こ

のような98.8%もの議席減少率を記録した⁵大規模な政治変動の実態はどのようなものであったのだろうか。

本論では、1993年カナダ下院総選挙全295選挙区における有権者の投票行動に関するディスクリプション（description）の作業⁶を行い、各選挙区毎の得票率に焦点を当てることにより、こうした大規模な政治変動が生じた選挙において、有権者レベルではどのような票の動きが生じていたのかを概観することとする。

先ず第1章では東部カナダ、第2章では中央カナダ、そして第3章では西部カナダ（及び準州）という順序で各地域を取り上げ、全10州（+2準州⁷）毎における全選挙区に焦点を当てることとする。そして、その結果を基に、第4章では各州及び地域毎における有権者の投票行動パターンを示し、有権者レベルにおける1993年総選挙を素描することとする。

なお、本論で用いる選挙結果データ（ハード・ファクト）は、全てCanadian Parliamentary Handbook⁸及びThe Canadian General Election of 1993⁹に依拠している。

第1章 1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプション（東部カナダ）

カナダは準州を除いた全10州を東部カナダ、中央カナダ、西部カナダの3つに分割して捉えることが可能である。

(1) ニューファウンドランド州（7選挙区）

東部カナダとして取り扱う州は、ニューファウンドランド、プリンス・エドワード・アイランド、ノヴァ・スコシア、ニュー・ブランズウィックの4州である。先ずはこの東部カナダの最も右、つまりカナダ全体から見ても最右端に位置するニューファウンドランド州から順に見ていくこととする。

1988年総選挙において、ニューファウンドランド州の割り当て議席7議席のうち、およそ7割にあたる5議席を獲得していた自由党は、1993年総選挙では、さらに議席を伸ばし同州の全ての議席を獲得した（表1-1）のであるが、有権者レベル、すなわち得票率においても、同党は数値を大幅に上昇させた。

表 1-1 ニューファウンドランド州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	5	7
進歩保守党	2	0

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

先ず、同党が1988年の時点で獲得し、1993年も再選を遂げた5選挙区について見ると、自由党と進歩保守党との得票率の差は、進歩保守党の票の殆どが自由党に流れたために、1988年が1選挙区あたり平均で18.7%であったのが、1993年は平均60.2%にまで拡大した。特に、格差が少なかったBonavista-Trinity-Conception選挙区(1988年の得票率差8.4%→1993年の得票率差53.5%)とBurin-St. George's選挙区(同、2.8%→64.4%)で大きな変動幅を記録し、結果として、自由党は1988年は僅少さで議席を手にした選挙区でも1993年は圧勝となった。

次に、1988年では進歩保守党に議席を譲ったものの、1993年は自由党が勝利を取めた2選挙区について見ると、1988年総選挙で進歩保守党は自由党に1選挙区あたり平均27.0%の得票率差をつけたのであるが、1993年は逆に自由党に平均9.8%の得票率差をつけられるほど自由党に票が流れた。St. John's East選挙区では進歩保守党の善戦(得票率差2.1%)も見られたが自由党に敗れ、ニューファウンドランド州における進歩保守党の獲得議席数は皆無となった。

このように、同州全体において進歩保守党が失った票の殆どが自由党に流れたために(進歩保守党は1選挙区あたり1988年より平均16.7%得票率を下げたのに対して、自由党は23.5%得票率を上げた)、結果として、ニューファウンドランド州における各政党の得票率は、自由党70.25%、進歩保守党24.25%、新民主党3.07%、改革党1.18%となり、同州における有権者レベルの1993年総選挙は、自由党が次点政党の進歩保守党に46%もの得票率差をつけ勝利を取めた。なお、同州における自由党の得票率は、同党の全国得票率(41%)を大幅に上回るものであり、カナダ全土で最も高いものであった。

(2) プリンズ・エドワード・アイランド州 (4 選挙区)

同州では、進歩保守党が政権についた1988年総選挙においても、自由党は割り当て議席全てを獲得していたのであるが、同党は1993年総選挙も再び全ての選挙区で議席を獲得した。

表 1-2 プリンズ・エドワード・アイランド州
(議席)

	1988年	1993年
自由党	4	4
その他	0	0

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

有権者レベルを概観してみると、1988年が平均8.6%の得票率差であったのが、1993年では28.0%にもなり、19.4%得票率差が拡大した。つまり、1988年総選挙では、自由党が全議席を獲得したといっても、わずかな票の移動で勝敗が逆転するほどの小さい格差であったのが、1993年の総選挙では進歩保守党の支持後退がそのまま自由党の支持拡大につながり（進歩保守党は1選挙区あたりで1988年より平均9.3%得票率を下げたのに対して、自由党は10.1%得票率を上げた）、1993年は大きく差が開いたのであった。中でも、1988年総選挙で、同州において最も格差が小さかったHillsborough選挙区（1.3%差）が、1993年総選挙で最大格差（33.9%差）を記録したのはその典型である。

結果として、同州では、自由党が60.17%、進歩保守党が32.15%、新民主党が5.17%、改革党が0.95%の得票率を記録し、有権者レベルの1993年総選挙は、自由党が30%近くの得票率差を進歩保守党につけて勝利を収めた。

(3) ノヴァ・スコシア州 (11選挙区)

ノヴァ・スコシア州では、以下に示すように、1988年の段階では自由党と進歩保守党が議席をほぼ分け合う形であったのが、1993年においては全ての議席を自由党が独占し、議会レベルでは自由党が完勝した形となった。

有権者レベルを見てみると、先ず、自由党が1988年に続き1993年においても

表 1-3 ノヴァ・スコシア州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	6	11
進歩保守党	5	0

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

議席を獲得した6選挙区では、いずれの選挙区においても、自由党が1998年総選挙よりも20%以上も進歩保守党との得票率差を拡大させた。1988年の段階で自由党が獲得した選挙区は、Cape Breton-East Richmond, Cape Breton-The Sydneys両選挙区を除けば、勝ったとはいえ進歩保守党との格差は小さかったのであるが(得票率差平均6.2%)、1993年総選挙では、そうした選挙区においても自由党は大きな支持を集め、進歩保守党との格差を拡大させた(同43.5%)。

次に、1988年総選挙で進歩保守党が議席を獲得した5選挙区では、同党は1993年には、逆に自由党に平均14.6%の得票率差をつけられ、全ての議席を失うこととなった。但し、他の東部の州とは異なり、ノヴァ・スコシア州では、進歩保守党の失った票は自由党にそれ程多くは流れておらず、地域政党の改革党にその多くが流れた。同州で進歩保守党が失った1選挙区あたりの得票率は平均17.4%であったのに対して、自由党は得票率を平均6.2%しか上げていない。新民主党が平均4.9%得票率を下げたことも考慮に入れると、自由党は、従来ならば同党が獲得出来たであろう22.3%の得票率のうち、3割さえ獲得することが出来なかった。残りのおよそ7割は改革党に流れたのであり、議席こそ獲得出来なかったが、ノヴァ・スコシア州は他の東部の州と比して、地域政党の改革党がある一定程度のインパクトを有した州であった。

全体の結果としては、自由党が53.49%、進歩保守党が23.09%、新民主党が6.60%、改革党が12.72%を記録し、同州における有権者レベルの1993年総選挙は、自由党が30%以上の得票率差を次点政党の進歩保守党につけ勝利を収めた。

(4) ニュー・ブランズウィック州 (10選挙区)

ニュー・ブランズウィック州の議会レベルでの勝敗を見ると、1988年総選挙では、自由党は進歩保守党と議席を分けあっていたのであるが、1993年総選挙では、進歩保守党の獲得議席はわずか1議席で、残りは全て自由党が獲得するというように、自由党の勝利に終わった。

表1-4 ニュー・ブランズウィック州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	5	9
進歩保守党	5	1

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

有権者レベルでは、まず、1988年に引き続き1993年も自由党が議席を獲得した5選挙区については、自由党と進歩保守党との格差が一層拡大し、1選挙区あたりの得票率差が平均48.1%にまで到達した。

次に、1988年は進歩保守党が獲得し1993年は自由党が獲得した4選挙区では、自由党が進歩保守党につけた得票率差は平均10.3%であった。

同州全体での票の流れを見ると、前述のノヴァ・スコシア州以外のケースと同様に、進歩保守党の失った票の殆どが自由党に流れ（進歩保守党は1選挙区あたりで1988年より平均11.8%得票率を下げたのに対して、自由党は平均10.2%得票率を上げた）、その結果、同州における各政党の得票率は、自由党が55.91%、進歩保守党が28.69%、新民主党が4.82%、改革党が7.18%になり、ここでも有権者レベルにおける1993年総選挙は、自由党が30%近くの得票率差を次点政党の進歩保守党につけて勝利を取めた。

このように、東部カナダにおける全32選挙区を見ると、自由党が再選を遂げた選挙区では、同党と進歩保守党との格差はさらに拡大する傾向を示した。また、1988年は進歩保守党が議席を獲得したが1993年は自由党が議席を奪い返した選挙区においては、若干の選挙区で進歩保守党は善戦したが、ここでも1988年総選挙で自由党につけた得票率差を活かすことが出来ずに、進歩保守党は敗

北を喫した。進歩保守党が東部カナダで獲得出来た議席は、ニュー・ブランズウィック州Saint John選挙区でのわずか1議席であった。

以上のように、自由党は東部カナダにおける議会レベルで圧倒的な勝利を収めたのであるが(表1-5)、有権者レベルにおいても、同党は得票率第2位の進歩保守党に大きな差(平均得票率差約33%)をつけ勝利を収めた(表1-6)。また、地域政党の1つである改革党は多くの選挙区で候補者を擁立したが、従来からの自由党と進歩保守党による競合関係に大きな影響を与えるほどの支持を獲得するには至らなかった。東部カナダ全体における有権者レベルでの自由党と進歩保守党との勝負では、進歩保守党が失った支持が概ね自由党の支持へと流れたために、1988年総選挙よりも東部カナダにおける自由党の強さが補強された形となった。

表1-5 東部カナダにおける議会レベルの1993年総選挙結果

(議席)

	自由党	進歩保守党	新民主党	改革党
ニューファウンドランド	7	0	0	0
プリンス・エドワード・アイランド	4	0	0	0
ノヴァ・スコシア	11	0	0	0
ニュー・ブランズウィック	9	1	0	0
東部カナダ合計	31	1	0	0

(出所) John Bejermi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

表1-6 東部カナダにおける有権者レベルの1993年総選挙結果

(%)

	自由党	進歩保守党	新民主党	改革党
ニューファウンドランド	70.25	24.25	3.07	1.18*
プリンス・エドワード・アイランド	60.17	32.15	5.17	0.95*
ノヴァ・スコシア	53.94	23.09	6.60	12.72
ニュー・ブランズウィック	55.91	28.69	4.82	7.18*
東部カナダ平均	59.95	27.09	4.91	5.50*

* 以下の数値は候補者を立てた選挙区のみを分母として計算した数値である。

ニューファウンドランドから順に2.76%, 3.80%, 11.96%, 7.81%となる。

(出所) John Bejermi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

第2章 1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプション（中央カナダ）

中央カナダに属する州は、ケベックとオンタリオのわずか2州と数は少ないのであるが、この2州だけで下院総議席（295議席）のおよそ6割にあたる174議席が割り当てられており、政権獲得の上で極めて重要な地域となっていた。

(1) ケベック州（75選挙区）

ケベック州においては、進歩保守党が1988年総選挙で自由党の獲得議席の5倍を上回る63議席を獲得したのであるが、1993年選挙では同党はそのうちのSherbrooke選挙区を除いた全ての選挙区で議席を失った。

しかしながら、同党の政敵である自由党の増加議席はわずかに7であった。代わりに大躍進を遂げたのが、自由、進歩両大政党の競合関係に新規参入した地域政党のケベック連合であり、同党は選挙初参加ながら、ケベック州に割り当てられた75議席のうち、7割以上にあたる54議席を獲得するに至った。

表2-1 ケベック州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	12	19
進歩保守党	63	1
ケベック連合	—	54
その他	0	1

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

この3政党間における票の流れを簡述すれば以下のように要約出来る。先ず自由党であるが、同党は1993年に獲得した19選挙区のうち11選挙区は、1988年に引き続き議席を獲得した再選区である。そして10選挙区で進歩保守党からの票の一部を集め議席を獲得した一方、他方では2選挙区で票をケベック連合に奪われたために、結果的に7議席増の19議席となった。

次に進歩保守党であるが、同党が議席を獲得したすることが出来たのは、わずかにSherbrooke選挙区のみで、残りの62選挙区のうち、52選挙区でケベック連合に最も多く票を奪われ、9選挙区で自由党に、1選挙区で無所属候補に対して同党の票が主に流れた。

ケベック連合は、議席を獲得した54選挙区の殆ど(52選挙区)で、進歩保守党から票を奪う形となった。残り2議席は、1988年選挙で自由党の支持が強かった選挙区であり、同党から支持を奪うことによって確保した議席であった。

このように、ケベック州においても、進歩保守党は東部カナダと同様に大幅に有権者の支持を失ったのであるが、失った支持の行き先は東部カナダとは大きく異なる結果となった。すなわち東部カナダにおいては、前節で見たように、失った支持の殆どが古くからの同党のライバルである自由党に流れ、結果として同党との得票率差が一層広がったのであるが、ケベック州においては、以下のように、1993年選挙で新規参入したケベック連合にその多くが流れたために、同州の割り当て議席のうち約7割がケベック連合の議席となったのである。

このケベック連合の影響力は、同連合が議席を獲得出来なかった選挙区を含む殆ど全てのケベック州内の選挙区において生じており、自由党が再選を果たした選挙区では進歩保守党が平均28.9%得票率を下げた(さらには新民主党も平均10.0%得票率を下げた)のに対して、自由党はその合計の約3分の1にあたる平均13.5%しか得票率を上げることが出来なかった。さらには、同党が進歩保守党から議席を奪った選挙区においてさえ、進歩保守党が平均37.0%得票率を下げた(新民主党も平均12.4%得票率を下げた)のにもかかわらず、自由党は得票率を平均18.7%しか上げていない。つまり、ケベック連合は議席を獲得出来なかった選挙区(すなわち自由党が議席を獲得した選挙区)においても、大きなインパクトを有していたことが見てとれる。

進歩保守党がケベック州における得票率を1988年の52.7%から13.9%へと40%近くも数値を下げたにもかかわらず、ライバルである自由党は、1988年の得票率30.6%から33.0%へとわずか2%あまり(2.4%)しか得票率を増やすことに成功していない。しかも自由党が強力な地盤を有する都市部モントリオール(Montreal)の21選挙区を除けば、その数値はさらに低くなり(わずかに0.2%増の30.8%)、各選挙区で殆ど支持を拡大させていないことが分かる。

結果として、ケベック州における各政党の得票率は、自由党が32.95%、進

歩保守党が13.94%、新民主党が1.55%、ケベック連合が48.94%となった。東部カナダでは、自由、進歩両大政党とも全国平均の得票率を大幅に上回る数値（自由党：全国41%、東部60%、進歩保守党：全国16%、東部27%）を記録したが、ケベック州では逆に両大政党と新民主党（全国7%）の全既成政党が、各々の全国得票率を下回る値を示し、地域政党のケベック連合が新規参入にもかかわらず、高い得票率を記録した。

このように、ケベック州における有権者レベルの1993年総選挙は、ケベック連合が勝者となったのであるが、東部カナダにおいて自由党が勝者になった状況とは異なっている。東部カナダにおいては、勝者自由党は次点政党の進歩保守党に30%以上（32.86%）もの得票率差をつけたのであるが、ケベック州において、勝者ケベック連合が次点政党の自由党につけた得票率差はおよそ16%（15.99%）であり、前者の得票率差の半分以下である。これは、オンタリオ州にある首都オタワ（Ottawa）に隣接する都市部モンリオールにおいて、自由党が割り当て議席21議席のうち6割強にあたる13議席を有するほど有権者の支持を集めたためである。自由党は元来、都市部有権者に強く支持されており、ケベック連合が躍進を遂げた1993年の選挙においても、それが示された形となった。モンリオール以外のケベック州全域で自由党がケベック連合の半分にも満たない得票率であったのに対して、都市部モンリオールでは、自由党は逆にケベック連合に1選挙区あたり平均10%以上の得票率差をつけるほどであった。

このように、ケベック州における有権者レベルでの勝負を正確に記述するならば、都市部モンリオールにおいては、勝者は自由党、それ以外のケベック州全体では、勝者はケベック連合ということになる。

(2) オンタリオ州（99選挙区）

同州は、99という最大の議席数が割り当てられているが、議会レベルの1993年総選挙結果は、非常にシンプルな形となった。1988年総選挙では、以下のようになり、自由党が43議席、進歩保守党が46議席、新民主党が10議席であったのが、1993年総選挙では、自由党が割り当て議席の約99%にあたる98議席を獲得し勝利を収めた。自由党が獲得した98選挙区のうち43選挙区は再選区で、45選挙区は進歩保守党から、10選挙区は新民主党から議席を奪う形となった。ちなみに、

改革党の1議席はSimcoe Centre選挙区で進歩保守党から奪った議席であるが、ここでも改革党の得票率37.9%に対し自由党は37.6%とわずか0.3%差まで肉薄している。

表2-2 オンタリオ州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	43	98
進歩保守党	46	0
新民主党	10	0
改革党	—	1

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

1993年総選挙を有権者レベルから概観すると、43の自由党再選区では、進歩保守党と新民主党が失った支持（各々平均19.1%減、平均14.0%減）を、自由党と改革党がほぼ分け合う形となっている（各々平均16.3%増、平均15.4%増）。自由党が議席を新たに獲得した55の選挙区を見ると、新民主党から議席を奪う形となった10選挙区では、新民主党が失った支持（平均20.44%減）を自由党がすべて吸収（平均22.5%増）することに成功している。ちなみに、改革党は、前述の自由党再選区で記録したのと同値の15.2%の得票率増を記録した。

自由党43再選区と自由党が新民主党から議席を奪った10選挙区の計53選挙区では、自由党の議席獲得は自由党自身の力によるところが大きかった。先に見たように、前者においては既にあった1988年の支持よりもさらに多くの支持を獲得し、後者においては現職政党である新民主党の失った支持を吸収することに成功したのであった。

しかしながら、残りの45選挙区、すなわち自由党が進歩保守党から議席を奪う形となった選挙区では、少し異なる様相が垣間見られる。この45選挙区では、前述の新民主党から議席を奪った10選挙区と比べると、およそ10%も低い1選挙区あたり平均12.9%の得票率増にとどまった。この様な状況にもかかわらず、自由党は進歩保守党から45議席も奪うことが出来たのであるが、それは以下に

見るように改革党の存在に依るところが大きいと考えられる。

自由党が進歩保守党から議席を奪う形となった45選挙区では、進歩保守党は得票率を平均22.8%減少させたのであるが、既述のように自由党はそのおよそ半分強しか吸収することに成功しておらず、その数値は同45選挙区で新民主党が失った支持の数値（平均13.6%減）とほぼ一致する。つまり、単純化して言うならば、全体の数字から見れば、自由党は新民主党が失った支持を取り付けただけと考えることも可能であり、その結果、進歩保守党が失った約23%の支持は、地域政党の改革党の支持になったと考えられるのである。同党がこの45選挙区で記録した得票率増の数値は平均23.2%であり、進歩保守党の記録した平均22.8%の得票率減とほぼ一致する。仮に改革党が同45選挙区に候補者を立てていなければ（それ故、進歩保守党が支持を大幅に減らしていなければ）、自由党がたとえ平均12.9%得票率を増加させたとしても、数字上、同45選挙区では進歩保守党の得票率を上回することは出来ず、議席を獲得することは不可能であったと考えられる。

しかしながら、現実には、同45選挙区における改革党の善戦により進歩保守党が支持を大幅に後退させたために、結果として、現職政党であった進歩保守党の得票率が自由党のそれを下回るようになり（つまり、自由党が「相対」多数になり）、議席が自由党に譲り渡される形となったのである。獲得議席こそわずかに1議席に過ぎなかったが、改革党のインパクトは決して小さくはなく、そのことは改革党が進歩保守党よりも得票率が上回った選挙区が、全99選挙区のうち3分の2以上の68選挙区であったことから理解されよう。オンタリオ州は、改革党にとって、同党の基盤である西部カナダを除く地域、すなわち東部及び中央カナダにおいて、唯一得票率順位で2位以上になった州なのであった。

オンタリオ州における有権者レベル全体の結果としては、自由党53.94%、進歩保守党16.87%、新民主党6.54%、改革党19.14%となり、東部カナダと同様に、自由党が次点政党の改革党に30%以上の得票率差をつけて勝利を収めた。

しかしながら、東部カナダと異なる点は、東部カナダ諸州では地域政党のインパクトは殆ど無く、概ね自由党が独力で勝利を収めたのであるが、このオンタリオ州においては、とりわけ自由党が議席を有した98選挙区のうち、半分近くの45選挙区（進歩保守党から議席を奪った選挙区）は、改革党のアシストに

よる勝利であった。つまり、中央カナダでは、ケベック州におけるケベック連合に続いて、オンタリオ州でも地域政党によるインパクトがあったと考えられるのであるが、前者（ケベック州）においては、地域政党自らが議席を獲得するという直接的なインパクトであったのに対して、後者（オンタリオ州）においては、ある政党の勝利をアシストする（逆に言えば、ある別の政党に不利に作用する）という間接的なインパクトであった。

表 2-3 中央カナダにおける議会レベルの1993年総選挙結果

(議席)

	自由党	進歩保守党	新民主党	ケベック連合	改革党	その他
ケベック	19	1	0	54	—	1
オンタリオ	98	0	0	—	1	0
中央カナダ合計	117	1	0	54	1	1

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

中央カナダに関しては、議会レベルから一見するとケベック州のみで地域政党のインパクトが存在したように思われるが(表2-3)、有権者レベルに目を向けると、オンタリオ州においても、程度は異なるが、地域政党がインパクトを有していたということが理解される(表2-4)。

このように、東部カナダとは異なり、中央カナダでは地域政党によるインパクトが少なからず存在し、従来の有権者の政党支持パターンを変化させた。そ

表 2-4 中央カナダにおける有権者レベルの1993年総選挙結果

(%)

	自由党	進歩保守党	新民主党	ケベック連合	改革党
ケベック	32.95	13.94	1.55*	48.49	—
オンタリオ	53.94	16.87	6.54	—	19.14**
中央カナダ平均	43.45	15.40	4.05	—	—

* 以下の数値は候補者を立てた選挙区のみを分母として計算した数値である

*1.58% **19.54%

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

して、こうしたインパクトには、上述のように、地域政党自身が議席を獲得するという直接的なインパクトと、主として選挙時に政権政党であった進歩保守党に不利に作用し、自由党に有利に作用するという間接的なインパクトの2種類が存在したのであった。

第3章 1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプション（西部カナダ）

西部カナダに属する州は、マニトバ、サスカチュワン、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの4州である。本章ではこれらに加えて、各々2選挙区、1選挙区の計3選挙区のみであるが、ノースウェストとユーコンの2準州についても触れることとする。現在では、ノースウェスト準州から先住民によるヌナヴト（Nunavut）準州が分割されたために、全部で3準州（3選挙区）となっている。

(1) マニトバ州（14選挙区）

1988年総選挙では、同州の割り当て議席の半分にあたる7議席を進歩保守党が獲得し、残りの約7割（5議席）を自由党が獲得していたのであるが、1993年総選挙では、進歩保守党が全ての所有議席を失い、全議席のおよそ8割以上にあたる12議席を自由党が獲得して、同党が勝利を収めた。同党が議席を有し

表3-1 マニトバ州

（議席）

	1988年	1993年
自由党	5	12
進歩保守党	7	0
新民主党	2	1
改革党	0	1

（出所） John Bejermi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

た12選挙区のうち、5つは自由党再選区、6つは進歩保守党から、そして1つは新民主党から議席を奪う形となった選挙区である。

1993年総選挙を有権者レベルから概観すると、先ず5つの自由党再選区では、同党が増加させた得票率は平均9.4%であり、この値は進歩保守党が減らした得票率平均21.4%の半分以下であった。全体の数字の上では、進歩保守党が失った支持のうち半分以上(11.3%)は改革党に吸収されており、改革党による影響が見てとれる。

次に自由党が新たに獲得した7選挙区では、さらに改革党による影響が生じていたことが理解される。同7選挙区では、そのうちの6つが進歩保守党から奪う形であったのであるが、議席を奪還するのに自由党が増加させた得票率は、1選挙区あたり平均8.0%に過ぎなかった。進歩保守党が平均30%近く(29.0%)数値を下げたことを考慮に入れると、本来ならば自由党はより多くの支持を集めることが出来たと考えられるが、代わって、進歩保守党が失った支持の多くを吸収することに成功したのが改革党(平均22.5%増)であり、仮に改革党の存在が無ければ(すなわち、進歩保守党が大幅に得票率を下げなければ)、自由党が得票率で進歩保守党を上回することは数字上不可能であった。オンタリオ州において自由党が進歩保守党から議席を奪う形となった45の選挙区と同様に、自由党の進歩保守党からの議席の奪還は、改革党によるアシストが大きな要因であったことが理解される。改革党は同州において獲得議席こそ1議席のみであったが、間接的なインパクト(ここでは進歩保守党にとってはマイナスに、自由党にとってはプラスに作用)を有していたのであった。

マニトバ州全体の有権者レベルでは、自由党が44.21%、進歩保守党が12.17%、新民主党が17.74%、改革党が21.08%の得票率を記録し、自由党が勝利を取めたのであるが、オンタリオ州に続いて次点政党となった改革党に対してつけた格差は、23.13%にとどまった。また、新民主党が進歩保守党を抜き第3位政党になり、進歩保守党が同州の有権者レベルで最下位政党となった。

(2) サスカチュワン州 (14選挙区)

サスカチュワン州では、1988年総選挙の議会レベルで勝者となったのは、同州割り当て議席のおよそ7割にあたる10議席を獲得した新民主党であり、残りの全ては進歩保守党によって占められたため、同州では、自由党は全く議席を

獲得することが出来なかった。

しかしながら、1993年総選挙では、自由党が5議席、新民主党が5議席、改革党が4議席というように、同州の割り当て議席がこれらの3党でほぼ等分に分けられる結果となり、代わりに進歩保守党が全ての議席を失うこととなった。

表3-2 サスカチュワン州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	0	5
進歩保守党	4	0
新民主党	10	5
改革党	0	4

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

1993年総選挙を有権者レベルから素描すると、先ず自由党が獲得した5選挙区では、自由党が3議席を新民主党から、2議席を進歩保守党から獲得することに成功したにもかかわらず、自由党の1選挙区あたりの得票率増加は平均12.7%にとどまった。進歩保守党と新民主党は、各々平均24.2%、14.8%得票率の数値を下げたのであるが、仮に改革党の存在が無く、それ故、こうした政党が大幅に得票率を低下させていなかったならば、数字上自由党は議席を獲得することが不可能であった。だが実際には、平均12.7%の増加（自由党の議席獲得5選挙区における同党の得票率の値：平均37.0%）で5議席を獲得出来たのであるが、それは改革党のアシスト、つまり同5選挙区において改革党が記録した平均23.7%の得票率増加によるものであり、改革党の存在が自由党にプラスに作用したのであった。

こうした改革党の影響は、自由党と同じく5議席を獲得した新民主党にも及ぼされた。同党の5議席は全て再選区であるが、再選にもかかわらず支持を大幅に減少させたのは、全295選挙区のうちでも、この5つの選挙区とブリティッシュ・コロンビア州での2つの選挙区における新民主党だけであり、同党は、前回選挙から1選挙区あたり平均17.0%の得票率減を経験したのであ

た。そのため、同党は議席を維持したといっても、次点政党との差は殆ど3～4%といった僅少さでの勝利であり、最も差が少なかったThe Battleford-Meadowlake選挙区では、その差はわずか2.3%であった。

また、改革党はこのサスカチュワン州において初めて、まとまった議席（進歩保守党、新民主党から各々2議席ずつの計4議席）を獲得し、議会レベルでも一定の勢力を確保することに成功するなど、他政党へのアシストといった間接的なインパクトだけではなく、直接的なインパクトも有したのであった。

サスカチュワン州全体の有権者レベルでは、自由党31.72%、進歩保守党11.30%、新民主党26.67%、改革党27.58%という得票率結果から理解されるように、地域政党の改革党が、政権政党の座についた自由党とほぼ互角に競合したのであった。

(3) アルバータ州 (26選挙区)

アルバータ州における議会レベルでは、1988年総選挙で同州割り当て議席のほぼ全てを進歩保守党が占有していたのであるが、1993年では同党は全ての議席を失った。

表 3-3 アルバータ州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	0	4
進歩保守党	25	0
新民主党	1	0
改革党	0	22

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

しかしながら、進歩保守党に代わって役割を担ったのは、長年にわたり同党のライバル的存在であった自由党ではなく地域政党の改革党であり、1988年の進歩保守党がそうであったように、彼らがアルバータ州における割り当て議席のほぼ全てを占有する形となった。

このように大きな議席変動が生じた1993年総選挙を有権者レベルで概観してみると、改革党が議会レベルにおける数字以上に大きなインパクトを有していたことが理解される。

まず、改革党が議席を獲得した22の選挙区を見てみると、進歩保守党はおよそ40%近く（平均37.5%）得票率の数値を下げている。それに対して改革党は、全体の数字の上からでは、進歩保守党の失った支持全てを吸収することに成功し（平均37.9%増）、相対得票率は50%を超え1選挙区あたり平均55.0%に達した。

次に改革党が議席を獲得出来なかった、つまり自由党が獲得した4選挙区を見てみると、同4選挙区では進歩保守党が平均33.1%、新民主党が平均21.6%得票率を下げているのにもかかわらず、自由党が議席を奪うために増加させた得票率は平均19.7%であった。そのため、自由党は相対得票率で1位を占め議席を獲得したといっても、同4選挙区における次点政党である改革党との1選挙区あたりの平均得票率差はわずか2%未満（1.82%）であった。格差が2%未満ということは、仮に1%の票の移動があるだけで当落が入れ替わることを意味する。ここでのケースでは、有効投票数が1選挙区あたり平均42,743票であったので、1%の票は約427票にあたる。つまり、少なくとも自由党から改革党へわずか427票の移動があるだけで、計算上、改革党は議席を獲得出来ることになり、その結果、アルバータ州全ての議席を占有する可能性も存在したのである。

このように、アルバータ州における1993年総選挙の有権者レベルでは、自由党24.90%、進歩保守党14.53%、新民主党4.35%、改革党52.22%という結果となり、改革党が次点政党の自由党に30%近くの差をつけ勝利を収めた。

(4) プリティッシュ・コロンビア州（32選挙区）

西部カナダで最も割り当て議席の多い同州では、前回総選挙で新民主党が全体のおよそ6割にあたる19議席を獲得し、残り4割のほぼ全てを進歩保守党が獲得したのであるが、1993年総選挙では両党の議席はほぼなくなり、代わって、全体の約8割が改革党、約2割が自由党というように議席の配分パターンが変化した。

有権者レベルから1993年総選挙を概観してみると、まず改革党が進歩保守党

表3-4 ブリティッシュ・コロンビア州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	1	6
進歩保守党	12	0
新民主党	19	2
改革党	0	24

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendix. を基に作成

から議席を奪った選挙区では、数字上進歩保守党が失った支持と新民主党が失った支持（各々、平均18.6%、20.7%の得票率減）のほぼ全てを改革党が吸収した形となった（得票率平均37.9%増）。新民主党から議席を獲得した選挙区では、国民党(National Party)の存在のため、新民主党と進歩保守党が失った支持の全てを吸収することは出来なかったが、そのおよそ7割にあたる平均30.4%の得票率増加を記録した。

次に自由党が獲得した5選挙区を見ると、自由党の得票率増加は1選挙区あたり平均10.3%にとどまり、改革党がおおよそ倍近い平均19.6%数値を上昇させた。また、1選挙区だけであるが自由党再選区を見ると、進歩保守党、新民主党をはじめ議席を獲得した自由党までもが支持を減らし、改革党のみが支持を増加させた形となった。

最後に新民主党が2議席だけではあるが再選された選挙区を見ると、サスカチュワン州における同党の再選ケースと同様、再選されたとはいえ得票率を平均12.5%低下させている。ここでもやはり改革党が平均24.0%数値を上げており、この改革党が他政党の支持の一定部分を吸収したために、結果的に新民主党が相対得票率で1位になったことが理解される。

ブリティッシュ・コロンビア州における有権者レベル全体の結果は、自由党27.87%、進歩保守党9.45%、新民主党15.85%、改革党36.40%となり、改革党がアルバータ州に続いて、政権政党の座についた自由党の得票率を上回り勝利を収めた。

以上概観してきたように、西部カナダにおいても、中央カナダと同様に地域政党のインパクトの存在を見出すことが出来たのであるが、中でもアルバータ、ブリティッシュ・コロンビア州という西部地域の中でも西に位置する、言わば「純」西部地域において、改革党は多くの議席を獲得した（表3-5）。

表3-5 西部カナダにおける議会レベルの1993年総選挙結果

(議席)

	自由党	進歩保守党	新民民主党	改革党
マニトバ	12	0	1	1
サスカチュワン	5	0	5	4
アルバータ	4	0	0	22
ブリティッシュ・コロンビア	6	0	2	24
西部カナダ合計	27	0	8	51

(出所) John Bejermi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

また表3-6が示すように、有権者レベルにおいても、改革党はこの「純」西部地域で第1党になり、残りの2つの州でも第2党になるなど大きなインパクトを有したために、同党はカナダ全体の得票率順位でも第2位になるほど躍進を遂げるに至った。

表3-6 西部カナダにおける有権者レベルの1993年総選挙結果

(%)

	自由党	進歩保守党	新民民主党	改革党
マニトバ	44.21	12.17	17.47	21.00
サスカチュワン	31.72	11.30	26.67	27.58
アルバータ	24.90	14.53	4.35	52.22
ブリティッシュ・コロンビア	27.87	9.45	15.87	36.40
西部カナダ平均	32.17	11.86	16.08	34.32

(出所) John Bejermi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

改革党の東部カナダ諸州やケベック州での得票率の低さ（ケベック州では候補者を擁立していないため0%）を考えると、同党がいかに西部地域で強さを発揮したかということが理解されよう。

最後に、準州に触れておくと、議会レベルでは、ノースウェストにおいてもユーコンにおいても議席の変動は生じなかった。すなわち、前者では、1988年に引き続き1993年においても自由党が全2議席を確保する一方(表3-7)、後者においては、同じように新民主党が全1議席を保持した(表3-8)。

表3-7 ノースウェスト準州

(議席)

	1988年	1993年
自由党	2	2
その他	0	0

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

表3-8 ユーコン準州

(議席)

	1988年	1993年
新民主党	1	1
その他	0	0

(出所) John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994及びAlan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

両準州の有権者レベルについて見ると、ノースウェストにおいては、再選を果たした自由党が1選挙区あたりの得票率を平均25.0%上げ、進歩保守党と新民主党が失った支持の合計分をほぼ吸収する形となった(各々平均、8.8%減、21.2%減)。ユーコンにおいては、進歩保守党と新民主党が失った支持(各々、17.5%減、8.1%減)を、自由党と改革党がほぼ同じ程度吸収する形となった(各々、12.0%増、13.1%増)。

両準州における有権者レベルの結果は、ノースウェストでは、自由党66.15%、進歩保守党16.95%、新民主党8.00%、改革党7.05%、ユーコンでは、自由党23.30%、進歩保守党17.80%、新民主党43.30%、改革党13.10%であり、準州全体の得票率順位は、44.72%を記録した自由党が第1位で、以降順に、

新民主党 (25.65%), 進歩保守党 (17.37%), 改革党 (10.07%) となった。

第4章 1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプション (まとめ)

以上第1章から第3章まで、1993年総選挙における全295選挙区の選挙結果 (得票率) を基に有権者レベルからの描写を行った結果、1993年総選挙では、従来とは異なるアクターの存在、すなわち改革党とケベック連合という2つの異なる地域政党の存在が、カナダの政治変動に大きなインパクトをもたらしていることが理解された。本章では、1993年総選挙におけるこうした地域政党のインパクトについて整理しつつ、1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプションのまとめを行うこととする。

前章までの考察から理解されるように、地域政党が有するインパクトは、直接的と間接的の2つに大別することが可能である。すなわち、前者は地域政党が自ら議席を獲得したケースであり、後者は自ら議席を獲得することは出来なかったものの、ある他の政党が議席を獲得するのをアシストした、つまりある政党に有利に作用した (逆に言えば、別のある政党にはマイナスに作用した) ケースである。このようなインパクトに関して、地域・州毎に表で示すと概ね以下のようなになる。

表4-1 各地域・州における地域政党のインパクトの有無

東部	ニューファウンドランド	×	西部	マニトバ	△
	プリンス・エドワード	×		サスカチュワン	○
	ノヴァ・スコシア	×		アルバータ	○
	ニュー・ブランズウィック	×		プリティッシュ・コロンビア	○
中央	ケベック	○	準州	ノースウエスト	×
	オンタリオ	△		ユーコン	×

* ○:ある (直接的) △:ある (間接的) ×:なし

(出所) 筆者作成

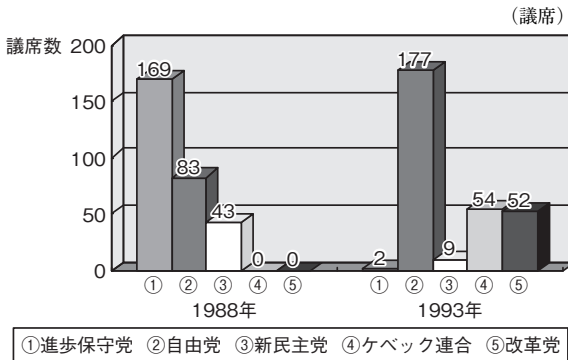
表4-1から理解出来るように、東部カナダ及び準州においては、直接的にも間接的にも地域政党のインパクトは殆どなかったのであるが、中央カナダにおいては、ケベック州のケベック連合による直接的なインパクト、オンタリオ州の改革党による間接的なインパクトが生じた。また西部カナダにおいては、

同じく改革党による直接的及び間接的なインパクトが生じたのであり、1993年総選挙では、カナダの広い範囲にわたって地域政党によるインパクトが存在したと言えるであろう。

このような地域政党によるインパクトは、カナダにおける政党勢力図（有権者の政党支持分布）のパターンを大きく変えるものとなった。また、1993年の総選挙で進歩保守党は、169議席からわずか2議席という、恐らくは他国を含めてもこれまで生じてはいなかったであろう政権政党の大幅な議席減を経験したのであるが、その大きな要因となったのは、長年にわたり同党のライバル的存在であった自由党の影響力とともに、野党第1党、第2党の地位についたケベック連合、改革党という2つの地域政党による影響力であったと言える。

このように、2つの地域政党の躍進はカナダの政治変動に大きなインパクトをもたらしたのであるが、各党の「獲得議席数の変化」と「得票率の変化」とを比較してみると、こうした新興政党である地域政党の大幅な議席増加とそれに呼応する与党・進歩保守党の大幅な議席減少は、多数代表制度である小選挙区制度がもたらした制度的インパクトが強く見受けられる。

図 4-1 各政党の獲得議席数の変化



(出所) Susan Girvan (eds.), *Canadian Global Almanac 2000*, Macmillan Canada, 1999, p. 180を基に作成

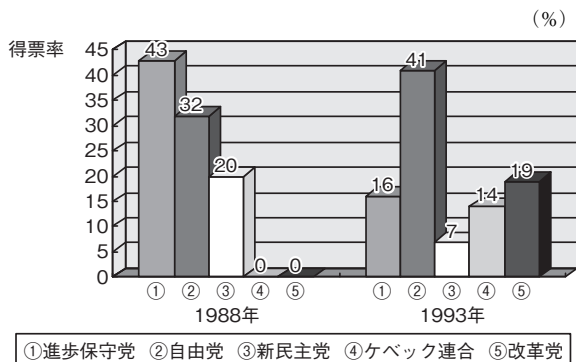
1993年総選挙結果を議席数で見ると、図4-1から理解されるように、勝者は自由党、ケベック連合、改革党の3政党、一方敗者は、進歩保守党と新民主党の2政党というように色分け出来るのであるが、図4-2が示

すように、同総選挙を得票率の視点から見ると、少し異なる様相が垣間見られる。

図4-2からは、進歩保守党が3分の2近く得票率を低下させる一方、自由党は3割近く得票率を伸ばしたということが理解される。また、新民主党は1988年から得票率をおよそ3分の2低下させ、ケベック連合と改革党は、各々約14%、19%の得票率を記録した。

それ故、政党毎の1988年総選挙における得票率と1993年総選挙における得票率との比較では、確かに一見すると自由党と2つの地域政党の支持拡大に対して、進歩保守党と新民主党の大幅な支持後退という、獲得議席数の視点から見たのと同じような帰結に至る。

図4-2 各政党の得票率の変化



(出所) Alan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994, Appendixを基に作成

しかしながら、1993年総選挙における各政党の得票率の値のみに着目すると、こうした帰結とは異なる結論が導き出される。自由党の勝利と新民主党の敗北の構図は変わらないが、興味深いことに、壊滅的な敗北を喫したとされる進歩保守党は、得票率においては、野党第1党のケベック連合を上回り、野党第2党の改革党に対してもほぼ互角に競合していることが理解される(図4-2における右側のグラフ)。

進歩保守党が、このように、野党第1党、第2党とほぼ互角の競合関係に

あったことを考えれば、同党は有権者レベルでは敗北してはいないと言えるであろう。確かに、1988年と比べると大幅に得票率を低下させたのであるが、1993年で記録した得票率それ自体は、わずか2議席という結果に至るような数値ではないのである。

表4-2に示すように、獲得議席順位では上から自由党、ケベック連合、改革党、新民主党、進歩保守党の順番であったが、得票率順位では2位以降は全て順位が変わり、自由党、改革党、進歩保守党、ケベック連合、新民主党の順番であった。すなわち、獲得議席順位と得票率順位との間には、大きな差異が生じていたことが理解される。

表4-2 獲得議席順位と得票率順位

獲得議席順位		得票率順位	
①自由党	177議席	①自由党	41%
②ケベック連合	54議席	②改革党	19%
③改革党	52議席	③進歩保守党	16%
④新民主党	9議席	④ケベック連合	14%
⑤進歩保守党	2議席	⑤新民主党	7%

(出所) Alan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Westell,
The Canadian General Election of 1993 Carleton
 University Press, 1994, Appendixを基に作成

おわりに

本論で行った1993年カナダ下院総選挙に関するディスクリプションでは、多数代表制度である小選挙区制度が有する制度的インパクトが見受けられた。

今日、我が国においては、いわゆる「1票の格差」問題に端を発した選挙制度の抜本的改革に関する議論が集約出来ずにいるが、これは、本論で考察したように、得票率を議席率へと翻訳する (translate) 際の媒介変数として用いられる選挙制度には大幅なインパクトの差異がある (すなわち、選挙制度は直接的に政党の消長に関連している) ため、各政党が自己に最も有利に働くであろう選挙制度を主張する結果、生じている現象であると言えるであろう。

また、従来より、選挙制度と政党システムとの関係性においてしばしば言及されてきた、『単純1回多数代表投票制 (le scrutin majoritaire à un seul

tour) は、2 党システムへの傾向がある¹⁰』という図式 (schème) は、「本書において定義づけられる図式のうちで、おそらく、真なる社会学的法則 (véritable loi sociologique) に最も近いものである¹¹』と称された、いわゆるデュヴェルジェの法則は、全国レベルの政党システム全体というよりも、各々の選挙区レベルにおいて成り立つ法則である¹²ことが、本論の考察からも示唆されよう。

-
- 1 ある特定の時点における選挙と次に行われた選挙との間において生じる選挙変化の指標として、得票率を伸張させたあらゆる政党の得票率増加の合計を用いることで、政党システムの変動を分析するものであり、この指標を用いて、M. ペデルセンは、およそ30年間にわたるヨーロッパにおける政党システムの変動を研究している。Mogens N. Pedersen, "Changing Patterns of Electoral Volatility in European Party Systems, 1948-1977: Explorations in Explanation", in Hans Daalder and Peter Mair (eds.), *Western European Party Systems: Continuity and Change*, Sage, 1983. また、こうした選挙ヴォラティリティのトレンドに関して、I. クルーとD. デンバーは、編著にて、アメリカ、カナダ、オーストリア、イギリスなど13ヶ国を対象とした研究を行っている。Ivor Crewe and David Denver (eds.), *Electoral Change in Western Democracies - Patterns and Sources of Electoral Volatility*, Croom Helm, 1985.
- 2 Arent Lijphart, *Democracies - Patterns of Majoritarian and Consensus Government in Twenty-one Countries*, Yale University Press, 1984.
- 3 *Ibid*, p 160.
- 4 *Ibid*, p 160.
- 5 選挙前は169議席であったが、選挙後は2議席となった。Susan Girvan (eds.), *Canadian Global Almanac 2000*, Macmillan Canada, 1999, pp. 178-181.
- 6 Gary King, Robert D. Keohane, and Sidney Verba, *Designing Social Inquiry - Scientific Inference in Qualitative Research*, Princeton University Press, 1994, p. 8. G. キング (Gary King), R. コヘイン (Robert D. Keohane), S. ヴァーバ (Sidney Verba) によれば、生じた事象の正確な理解を目的とし概観する過程はディスクリプション【記述的描写 (description)】と称される。本論では、主として、この作業を行うことにより、劇的かつ大規模な政治変動が生じた選挙を有権者レベルで正確に理解することを目的としている。なお、こうしたディスクリプションの段階で焦点を当てた観察対象からある一定のパターンを見出す作業はディスクリプティブ・インファランス【記述的推論 (descriptive inference)】、そして仮説の提示及び検証という一連の作業を通じて因果的な説明を試みる作業はコーザル・インファランス【因果的推論 (causal inference)】と定義付けられている。

- 7 当時は2準州であったが、1999年4月1日にノースウエスト準州からヌナヴト準州 (Nunavut Territories) が分割され、現在では全部で3準州となっている (*Les fiches documentaires sur le Canada. Ministère des Affaires étrangères et du Commerce international*における追加のNUNAVUTのページ)。
- 8 John Bejerimi, *Canadian Parliamentary Handbook*, Borealis Press, 1994.
- 9 Alan Frizzell, Jon H. Pammet, Anthony Weatell, *The Canadian General Election of 1993*, Carleton University Press, 1994.
- 10 Maurice Duverger, *Les Partis Politiques (3^e édition)*, Librairie Armand Colin, 1957, p. 247
- 11 *Ibid.*, p. 247.
- 12 川人貞史『選挙制度と政党システム』木鐸社、2004年、10-11頁。